

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
305	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>Effect of a Sake Concentrate on the Epidermis of Aged Mice and Confirmation of Ethyl <math>\alpha</math>-D-Glucoside as Its Active Component.          老齢マウスの表皮に及ぼす清酒濃縮物の影響とその活性成分としてのエチル<math>\alpha</math>-D-グルコシドの確認</p>	
執筆者	
Nakahara M, Mishima T, Hayakawa T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Biosci Biotechnol Biochem. 2007 Feb;71(2):427-34.	
キーワード	
清酒、エチル $\alpha$ -D-グルコシド、細胞間脂質、角化	
要旨	
<p>何世代にも渡って、日本では清酒が肌の状態に良い影響を及ぼすと思われている。実際に近年、清酒濃縮物や清酒の成分であるエチル<math>\alpha</math>-D-グルコシド (<math>\alpha</math>-EG) の塗布だけでなく飲用によっても、荒れ肌改善効果があることがマウスにおいて確認されている。本研究では、清酒濃縮物が紫外線 B 照射によって引き起こされた表皮バリア破壊を抑制することを示した。マウス表皮への清酒濃縮物の局所使用の影響を調べ、老化した表皮中の細胞間脂質含量が有意に増加することを見いだした。さらに、清酒の成分である<math>\alpha</math>-EG の局所使用は細胞間脂質レベルに同様の改善をもたらした。これに続いて、<math>\alpha</math>-EG が角質細胞分化の指標であるロリクリンタンパク質含量を有意に増加させ、一方、老化した角質層における角質細胞層数を減少させた。これらの結果から、清酒濃縮物の主要な活性成分としての<math>\alpha</math>-EG は表皮に良い影響を与えることが確認できた。<math>\alpha</math>-EG は細胞間脂質含量を増加させ、角質細胞の分化を促進して厚みを減らし、角質層の機能を改善することが示唆された。</p>	